（別記）

**2019年度杵島地区農業再生協議会水田フル活用ビジョン**

**１　地域の作物作付の現状、地域が抱える課題**

当地域は、佐賀県の中西部に位置し、比較的温暖な気候や土壌などの恵まれた環境のもと、米・麦・大豆を中心とした土地利用型農業をはじめ、施設園芸や畜産を展開している。

このような中、水稲については、生産のめやすに沿って、「さがびより」の生産拡大や、特別栽培米、種子生産に取り組んできた。

また、麦については、水稲と同様に種子生産に取り組んでおり、需要に応じた作付けに努めている。特に、大豆については、転作作物の主要品目として作付けを行い、ブロックローテーション等による生産拡大に取り組んでいる。

さらに、露地野菜については、玉葱を主体とした産地形成を図りながら、露地野菜の産地化に努め、施設野菜も含めエコファーマーに取り組むなど「安心・安全」な生産・供給を行い、有利販売に努めている。

しかしながら一方では、所得確保のために農外収入を求める人も多く、兼業化が進んでいる。それに加え、農業後継者不足や農家の高齢化により、今後の農業の担い手や農業者人口の不足が懸念される。

このようなことから、集落営農組織の法人化や大規模農家等の担い手育成を行うとともに、米・麦・大豆を中心に生産コストの低減や品質・収量アップに向けた技術の導入を進めながら、高品質で消費者、実需者ニーズに見合った農産物の生産をより一層推進する。

また、女性や高齢者を中心に比較的小規模で取り組める露地野菜等の作付け拡大を図る。

**２　作物ごとの取組方針等**

米、麦、大豆を中心とした土地利用型農業をさらに推進するとともに、大豆を転作作物の主体として生産めやすに沿った主食用米の計画的な生産を図る。

　また、産地交付金を有効に活用しながら、玉葱等の野菜振興を図り、水田の高度利用を推進する。

（１）主食用米

　当地域においては、米の「生産のめやす」に即した計画的な作付けの推進を図っていく。2018年産の作付実績については、「夢しずく」が171ha、「ヒノヒカリ」が115ha、「さがびより」が266ha、「ヒヨクモチ」が224ha、「それ以外」が4haとなっている。

　特別栽培米や種子生産を含め、需要に応じた生産を推進するとともに、気象条件に応じた栽培管理により品質向上を目指す。

（２）非主食用米

　　ア　WCS用稲

地域内での十分な話し合いのもと、畜産農家との連携による需要に応じた生産に取り組むとともに、大豆のブロックローテーション等を妨げないように留意する。なお、雑草の発生や病害虫の被害を受けないよう、主食用米と同様に適切な管理を徹底する。また、特別栽培米や種子生産の取組を行っているため、コンタミ（混入）には細心の注意を払うこととする。

（３）麦、大豆、飼料作物

麦については、今後とも地域の重要な戦略作物として、実需者の要望に応じた計　画的な作付けを行い、適期播種や病害虫防除等を徹底することにより、生産量や品質の向上を図る。また、産地交付金を活用しながら、麦わらすき込み等の取組を支援し、環境にも配慮した農業の実現に向けて地域をあげて推進していく。

　　　大豆については、転作の基幹作物として作付拡大に努め、ブロックローテーションによる連作障害解消や団地化による作業効率化により生産拡大を図る。また、産地交付金を活用し、現在の団地化率は97%となっており、昨年度2020年の目標としていた94%を達成できた。今後は維持を図るとともに、担い手（認定農業者・集落営農・法人等）への強化促進を図り、不耕起播種技術の取組を推進する。

　　飼料作物については、畜産農家との連携による需要に応じた生産を図り、耕畜連携を推進する。

**３　作物ごとの作付予定面積**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 作物 | 前年度の作付面積（ha） | 当年度の作付予定面積（ha） | 2020年度の作付目標面積（ha） |
| 主食用米 | 786 | 785 | 785 |
| WCS用稲 | 62 | 60 | 50 |
| 麦 | 969 | 980 | 985 |
| 大豆 | 340 | 350 | 355 |
| 飼料作物 | 3 | 10 | 15 |
| その他地域振興作物 | 30 | 34 | 36 |
|  | 露地野菜施設園芸花き | 1974 | 2284 | 2394 |

**４　課題解決に向けた取組及び目標**

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 整理番号 | 対象作物 | 使途名 | 目標 |  |
| 前年度実績 | 目標値 |
| 1 | 大豆 | 大豆団地化 | 大豆団地化率 | （2018年度）97％ | （2020年度）（94％）　　　　　　　99％ |
| 2 | 大豆 | 大豆不耕起播種 | 播種技術取組の割合 | （2018年度）20％ | （2020年度）30％ |
| 3 | 露地園芸 | 園芸作物 | 露地園芸作物の作物助成 | （2018年度）19ha | （2020年度）23ha |
| 4 | 施設園芸 | 施設園芸作物 | 施設園芸作物の作付面積 | （2018年度）11ha | （2020年度）13ha |
| 5 | 麦 | 麦わら有効活用 | 麦わらの有効活用率 | （2018年度）88％ | （2020年度）98％ |
| 6.7 | 麦 | 二毛作助成 | 麦二毛作の作付面積 | （2018年度）966ha | （2020年度）985ha |
| 8 | 飼料作物 | 飼料作物二毛作助成 | 飼料作物作付（二毛作）作付面積 | （2018年度）12ha | （2020年度）15ha |
| 9 | ＷＣＳ用稲飼料作物 | 資源循環（耕畜連携） | 資源循環の取組面積 | （2018年度）39ha | （2020年度）（35ha）　　　　　　　45ha |

※　必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※　目標期間は３年以内としてください。